

心でつながる

小 二

ぼくのひいじいちゃんは、なしづくりの名人です。一年中、なしやお米、野さいをそだてていて、何十年もつづけています。ぼくは、やさしくてはたらきもののひいじいちゃんが大すきです。

ぼくとひいじいちゃんは、メモで話をしていきます。なぜなら、ひいじいちゃんは、耳が聞こえないからです。話し

たいことをメモに書いて見せると、話の内ようだけでなく、「字がきれいになったね。」とほめてくれるのでとてもうれしくなります。メモを見せて、ひいじいちゃんがことばでかえす。このやりとりが、ぼくとひいじいちゃんをつなぐ大せつな時間です。

しかし、いつもメモをもち歩いているわけではありません。切ったなしのえだをあつめる手つだいをしていたとき、メモが手元にあります。そして、そのとき、ひいじいちゃん

は、ぼくの口の形を見て、何を
つたえたいのか読みとつてくれ
ました。言いたいことが分かる
まで、何ども話を聞いてくれま
した。耳は聞こえていなくて
も、思いはつたわるのだとい
うことが分かりました。

メモでの会話は、ふつうに
話すよりも、時間がかかりま
す。ぼくはまだかん字をあま
りつかえないので、言いたい
ことがうまくつたわらないこ
ともあります。しかし、きち
んとつたわるまで何どもやり
とりをすること、心でも通

じ合うことができません。

ぼくが小さかったころ、こ
とばを話しはじめたとき、ひ
いじいちゃんは、

「どんな声なのかなあ。聞き
たいなあ。」

と言っていたと聞きました。
声をとどけることはできない
けれど、思いがつたわるよう
に、ひいじいちゃんと通じ合
えるように、これからもたく
さん話をしたいと思います。
また、こまっぺいるときがあ
ったら、ぼくが力になりたい
です。